

ろう者俳優による演劇を取り入れた 「聴覚障害者のメンタルヘルス学習会」



(一社)日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会

代表発表者: 舘脇千春 共同発表者: 稲 淳子

※本発表に用いる人物写真の使用については本人の承諾を得ています

I はじめに

現代社会は自殺、ひきこもり、いじめ、不登校、虐待、家庭内暴力など、メンタルヘルスの問題が背景にあると思われる事象が増えている



一般市民を対象としたメンタルヘルスに関する学習会や講演会は
全国の自治体などで開かれているが、
手話通訳や要約筆記等の情報保障が付いた
聴覚障害者のための学習会は少ない

I はじめに(聴覚障害者の特性)

- ・ろう、難聴、中途失聴、一側性難聴(片耳難聴)・・・etc
- ・聞こえの度合いが一人一人異なり、コミュニケーション方法も口話、補聴器、人工内耳、手話、筆談(IT活用したUDトーク等)と様々
- ・幼少期から聞こえない、聞こえにくい人達は発達の途上で心理的負担を抱えながら成長している人が多い

I はじめに 聴覚障害の特性

- 聴覚障害者の主な福祉サービスは意思疎通支援事業
- 全国の聴覚言語障害者は約37万人
- 手話通訳や要約筆記、UDトーク等あれば自分で判断、決定、行動ができる。

家庭、学校、仕事、メンタルで悩んでいる聴覚障害者の中には、様々な理由で、自分で判断、決定、行動ができにくい人がいる。

I はじめに

聴覚障害者にも多い

精神疾患や精神障害に対する偏見や誤解

- ・当事者が深刻なニーズを抱えていても助けを求める声をうまく伝えることができない
- ・手話をコミュニケーション手段としている聴覚障害者には目で見てわかる学習会が必要
- ・ろうの俳優による手話を用いた演劇(オムニバス形式)を取り入れた「聴障者のためのメンタルヘルス学習会」を企画

I はじめに 学習会開催に向けて

これまでに全国各地の聴覚障害者協会及び手話通訳者関係団体等の協力を得て、15都府県にて開催してきた。

本日は、2015年度～
2018年度までに開催した
実践内容とその効果
及び課題を報告したい。



Ⅱ 取り組みの内容 1 概要

(1)「日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会」
聴覚障害者または手話のできる社会福祉士と
精神保健福祉士の集まり

2006年から聴覚障害者の相談支援体制の確立
を目指して、専門機関・者等と協働・連携し、改善に
向けて支援活動を行っている。



「聴覚サポートなかま」

Ⅱ 取り組みの内容 1. 概要

(2)「聴覚サポートなかま」とは？

- ①日本財団助成「**全国聴覚障害者相談支援事業**」
- ②2011年4月～2013年3月の**東日本被災聴覚障害者相談支援事業**がきっかけ
- ③2013年4月～、全国から依頼があれば個別支援
基本的に、**地域の情報提供施設関係者や聴覚障害者相談員と協働・連携しながら支援を進めている**
- ④2015年度～、「**聴覚障害者のためのメンタルヘルス学習会公演**」開始

Ⅱ 取り組みの内容 1 概要

(2) 聴覚サポートなかま

- 全国各地へ派遣
(無料)
- 全国各地にいる当協会の会員が聴覚障害に関する困りごとや悩みを受任・支援
- 登録ワーカー約50名

Supported by 日本聴覚障害者支援財団 JASWDF FOUNDATION

全国聴覚障害者相談支援事業

毎日の生活の中で…

精神的に疲れてしまった

聴+聴でコミュニケーションがうまくいかない!

子どもが不登校になってしまった

でも…

「困ったこと」なんでも相談してください。

就学相談

心の相談

就労相談

医療の相談

介護相談

福祉の相談等

派遣依頼・お問合せはこちら

聴覚サポート「なかま」 TEL : 03(5464)6058
派遣コーディネーター 矢野 FAX : 03(5464)6059
(日本聴覚障害者ソーシャルワーカー協会) メール : nakama@jaswdhh.org

一般社団法人 日本聴覚障害者ソーシャルワーカー協会

Ⅱ 取り組みの内容 1. 概要

(3) 学習会プログラム

1. 企画趣旨説明(15分)

2. 演劇(70分)

劇名 「青空がみえる～闇の向こうを信じて」

第一場 『アルコール依存症』

第二場 『パーソナリティ障害』

2. PSWによる手話でのレクチャー(30分)

「メンタルヘルスとは何か」、「生活のしづらさ」、
「こころの病気の予防や理解」などの**基本**

3. 参加者とのフリートーク(30分)

Ⅱ 取り組みの内容 1. 概要

学習会チラシ【旭川開催(参考)】



はいゆう すんげき まな
ろう俳優の寸劇で学ぶ

聴覚障害者のための メンタルヘルス

しゅわ 手話によるオムニバス「青空がみえる～闇の向こうを信じて～」

聞こえない人もちょっとしたことがかかると心の病…
闇の中をさすらう二人、男はアルコール依存症、女はパーソナリティ障害。
これは、二人がまわりの助けを借りて自己を回復する物語です。

● 役者プロフィール ●



庄崎 隆志 (しょうざき・たかし)
1961年生まれ。19歳のとき(1980年)、劇団「デフ・バベット・シアター・ひとみ」に入団。2005年に独立して「Office 風の器」を主宰。コトバや性別、年齢、国境を越えて楽しめることをモットーにして、無言劇、日本舞踊等、様々な手法を用い、視覚的コミュニケーションを追求した舞台やコンテンポラリーダンスを創り、劇作家、演出、個性派も手掛けます。2009年には全日本ろうあ連盟制作の映画『ゆずり葉』で主役の木村敬一を演じる。現在、コンテンポラリー『波無烈斗～ハムレット～』公演など活動中。平成22年度横浜文化賞・文化芸術奨励賞受賞。



河合 祐三子 (かわい・ゆみこ)
北海道出身。地元の劇団「舞夢(マイム)」での演劇活動を経て上京、シリアスなことからユーモラスな作品まで、個性豊かなキャラクターを活かし、幅広いジャンルの舞台上に挑戦し続けている。1995年、演劇の勉強のためアメリカ・デフ・シアター主催のサマースクールに参加。2000年、NHK番組(Eテレ)「手話ニュース」のキャスターに抜擢され、現在「子ども手話ウィークリー」「手話ニュース845」に出演中。

日時：2018(平成30)年12月9日(日) 12:30～15:30 (受付12:00～)
会場：旭川市民文化会館 小ホール
(旭川市7条通9丁目50番地)
TEL:0166-25-7331 FAX:0166-22-3526

資料代：500円
当日受付でお支払い下さい

主催／一般社団法人日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会
主管／一般社団法人旭川ろうあ協会

申込締切
11月20日(火)

プログラム 12:30～15:30

- 12:00～ 受付
- 12:30～ 開会のあいさつ・企画趣旨説明
- 13:00～ オムニバス「青空が見える～闇の向こうを信じて～」
脚本：青木淑子
出演：庄崎隆志・河合祐三子
- 14:40～ レクチャー（ちょっと学んでみよう）
「聞こえない人の精神保健（メンタルヘルス）」
講師：日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会
- 15:20～ まとめ、閉会のあいさつ
- 15:30 終了（当日はプログラム・時間が変更することがございます）

無料相談コーナー
あります！

手話のできるソーシャルワーカー等による相談コーナー(無料)を開催します。相談したい方は直接受付までお話し下さい。
(事前予約が望ましいのですが、当日受付も可能です)
10:00～12:00
旭川市民文化会館3階
①第5会議室 ②和室

※手話通訳・要約筆記が付きます。
※ホール内のビデオ撮影及び写真撮影は禁止となっております。予めご了承願います。
※大変申し訳ありませんが趣旨をご理解いただきたく小学生以下のお子さんはご遠慮ください。

■申し込み
2018(平成30)年11月20日(火)までに、下記の連絡先へFAX・メールにてお申し込みください。
■連絡先
一般社団法人旭川ろうあ協会事務局
TEL:0166-45-0757 / FAX:0166-45-0760 / E-mail: ad-1948@sun_gmobb.jp

申込締切 11月20日(火)

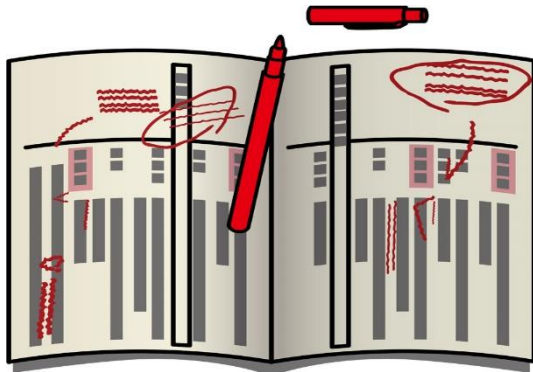
【聴覚障害者のためのメンタルヘルス学習会参加申込書】 FAX:0166-45-0760

ふりがな		必要な 情報保障	手話通訳 / 要約筆記 その他()
氏名			
所属			
連絡先	TEL: FAX:	MAIL:	
相談希望	(事前予約が望ましいのですが、当日受付も可能です) 無 ・ 有		

Ⅱ 取り組みの内容 1. 概要

脚本・台本作成にあたって...

精神保健の世界は、医学的にも
科学的にもまだまだ未知の分野が多く
わかりにくい



当事者の了解を得た事例を基に聞
こえないPSWが脚本を構成。
また多くの文献を参考引用

台本は、ろう者の医師が書き下ろした原作を基に
ろう学校校長経験のある脚本家が作成

Ⅱ 取り組みの内容 1. 概要

(4) 実施目的(意義)・方法

【目的】 精神障害を抱える聴障者の状況を広く一般社会に知らせることにより、その存在と情報保障の必要性の理解を深めてもらう

【方法】 (一財)全日本ろうあ連盟の協力、加盟団体及び手話関係者団体への周知、加盟団体主管によるPR、会場手配、設営準備、受付等

Ⅱ 取り組みの内容 1. 概要

(5) 開催要綱

①開催場所：都道府県

②対象者：聴覚障害者及びその家族、手話・要約筆記関係、支援関係機関及び関心のある方。

③定員：地域の状況、会場規模による

（およそ100名～200名）

④基本プログラム：講義、寸劇、フリートーク

⑤その他：聞こえない人の心の病に関する相談コーナーを設け、聴覚サポートなかま派遣事業の活用を図る

Ⅱ 取り組みの内容

2. 開催地域(参加者数)

2015年度 高知(102名)、香川(60名)、
秋田(110名)、青森(102名)

2016年度 群馬(186名)、滋賀(98名)、
大阪(600名)、沖縄(102名)、

2017年度 大分(156名)、鳥取(112名)、
富山(130名)、東京(302名)、

2018年度 旭川(130名)、鹿児島(150名)、
山口(96名)

※今年度は釧路(8月4日開催済(80名))と
2020年1月に広島開催予定。

Ⅲ 効果と課題 1. 効果

本学習会は全国の15都道府県にて開催し、参加者は延べ2400名を超える。

劇中では、聞こえないことから心の病気にかかってしまい医師や支援関係者等との関わりが十分にとれないまま苦しんでいる当事者の状況をろうの役者に丁寧に演じてもらった。

レクチャーは聞こえないPSWが手話で説明し、直接的なコミュニケーションで理解を深めることができた

Ⅲ 効果と課題

1. 効果（アンケート集計の一部から）

- ・「大変わかりやすかった」
- ・「いかに精神障害に対する差別や偏見、誤解をもっていたか知らされた」
- ・「見下していたアルコール依存症の親に対する見方が変わり考えさせられた」等の感想が多く寄せられた。

👉 もっと学びたいと意欲的になった地域では参加者や関係団体が学習会を企画し、当協会への講師依頼が増えた。

👉 聴障者に関する精神保健福祉相談が増えた

Ⅲ 効果と課題

1. 効果（記録映像のDVD化）

より多くの人達への普及理解促進を目的に、本学習会の記録映像をDVD化

ライブラリー機能を持つ全国の聴覚障害者情報提供施設53か所にDVDを寄贈し活用

地域の聴覚障害者センターからDVD鑑賞会を開催し精神保健に関するミニレクチャーの依頼が増加

結果的に、目で見てわかる本学習会開催の意義と効果は大きかったと考える。

Ⅲ 効果と課題 2. 今後の課題

直接的なコミュニケーション支援の必要性

手話を使用言語としている

精神障害を抱える聴覚障害者の多くは
自分と向き合いながら生活のしづらさを
乗り越えたいと望んでいる。

しかし、壁が...

支援の現場では対話の難しさから
関わりの築きがなかなかできないケースが多い

Ⅲ 効果と課題 2. 今後の課題

聴覚障害者の多くは「自分のことば」でのびやかに話せることは少ない

**コミュニケーション不全感→心が疲れやすい
(自己肯定感の低下)**

そのため「抑圧されたもの」を吐き出す機会がなく、一時期良くなっても、また健聴者社会の中で苦しむことが多い。

途方もなく難しい…立ち尽くす実践

Ⅲ 効果と課題 2. 今後の課題

- ・ひとりでも多くの人に「聴覚障害者のためのメンタルヘルス学習会DVD」を観てもらおう
- ・一般の行政関係者・団体、精神保健福祉センター等でのDVD鑑賞会の開催や啓発普及の拡充

当協会は2020年度に本事業の7年間（本学習会は5年間）の事業内容をまとめ、以下の活動を考える予定。

- ・研究調査結果の分析
- ・国への政策・提言（専門職能団体との連携と協働）
- ・聴覚障害者の精神相談支援体制の必要性の理解普及

多くの専門職の方の知見をいただき、次なるソーシャルアクションに向けた活動を展開していきたい

問い合わせ・連絡先

一般社団法人日本聴覚障害 ソーシャルワーカー協会

〒150-0011 東京都渋谷区東1-23-3

TEL 03-5464-6058 FAX 03-5464-6059

【聴覚サポートなかま】

派遣コーディネーター 舘脇宛

Mail center-nakama@jaswdhh.org

ホームページ <http://www.jaswdhh.org/>